

## 25. わしはら じ せきぶつぐん 鷺原寺石仏群

### ■ 指定日

昭和41年3月22日

### ■ 種別

兵庫県指定有形文化財 彫刻

### ■ 年代

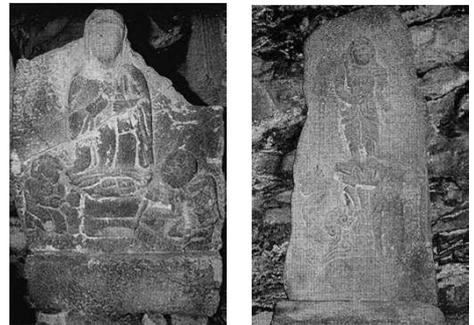
鎌倉時代

### ■ 所在地

朝来市上岩津

### ■ 所有者

鷺原寺



### ■ 内容

鷺原寺奥の院岩屋観音の中にある。

石仏15体と磨崖仏1体がある。16体のうち磨崖仏1体は、智拳印を結ぶ金剛界の大日如来である。中央十一面千手観音立像が主尊である。これを含めて真言六観音が配置されている。すなわち、千手観音の前列に五観音の坐像(左から聖観音・如意輪観音・準胝観音・十一面観音・馬頭観音)がある。如来は磨崖仏大日如来と、下に釈迦・阿弥陀の合わせて三如来である。他に菩薩が千手観音の両側に、文殊菩薩・普賢菩薩、洞窟の左側に前から地藏菩薩・虚空蔵菩薩・弥勒菩薩とが配されている。洞窟の右側には、守護神の性格を持つ不動明王と、鷺原寺の開祖と目される法道仙人像が安置されている。

不動明王像の右側面には、仏滅年紀とともに「永仁四年(二二年としてある)大工心阿沙弥」と刻されている。この銘は中世銘文としても貴重である。

永仁4年(1296年)のころは蒙古襲来もあり、人々が末法思想に陥っていたころである。不動明王像は、その銘のとおり心阿の作になるもので、鎌倉彫刻の芸術性をもっともよく表わしている。